

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 4 月 4 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500430		
法人名	社会福祉法人 かるが会		
事業所名	グループホームかるが		
所在地	広島県呉市狩留賀町3-16 (電話) 0823-20-3606		
自己評価作成日	令和6年1月9日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490500430-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年2月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>①レクリエーションおよびグループホーム内イベントを通して、入所者様のADL・QOLの維持・向上を図っていること。 ②施設構造および外部環境を活かし、展望のよいテラスにて散歩や家庭菜園を実施しており、コロナ禍による外出・面会制限等による入所者様のストレス軽減を図っていること。 ③家族様には2ヶ月に1回のペースにて便りを発行し、現在の入所者様の様子や写真を見ていただき施設での生活や本人の様子をお伝えしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>尊厳を大切に、利用者それぞれの思いや意向を尊重し寄り添った利用者本位の支援を行っている。施設の構造や建物のすぐ傍が一面の海に隣接している立地環境を活かし、リビングや展望の良いテラスにて海を眺めながら過ごせることや、散歩や家庭菜園など実施するなど、開設当初からコロナ禍の自粛を強いられる状況であり活動や外出、面会など様々にかかるストレスの軽減に取り組んできた。法人での研修や組織体系、事業所連携が整っており、職員が個々の目標を持った取り組みや自己研鑽を行うことで資質の向上に取り組む利用者の生活の支援に反映させている。日々のケアを充実させ、毎月のおやつ作りや花見、紫陽花ロードへの外出など行事や施設内のレクリエーションに注力して取り組み利用者の笑顔に繋げている。日々生きる喜びを味わえるケアを行い共に生きるという法人理念を具現化した取り組みとなっている。</p>

自己評価	外部評価	項目(あじさい)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲示し、管理者、職員等が理念を共有し毎日の朝の申し送りの時に復唱し、理念の共有に取り組んでいる。	理念は事務所に掲示し、朝礼にて確認、周知に努め日々意識し取り組んでいる。理念に沿った適切なケアができていないかをユニット会議で話し合い、振り返る機会を持ち実践に繋げている。毎年、職員全員で事業所目標を作成し、利用者と共に楽しみを持った生活となるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ボランティアや職場体験などを受け入れ、運営推進会議等を開催し、地域の人と交流を図っている。	法人として町内会に加入し地域との繋がりを形成している。地域情報は適宜法人内で共有し活動に反映させている。コロナ禍で外部との交流は自粛を継続しているが、お茶会の講師を招き実施している。以前では定期的にボランティア訪問や、地域の秋祭り、園児との交流など行っていた。	開設当初からコロナ禍という状況もあり、地域との関係性もこれからというところがあります。法人として地域との関係性を構築していますが、これからグループホームとしての地域との関わりを作っていく、独自の色として位置づけていけることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	市の委託事業のサロンにて、認知症への理解やケアについて研修やアドバイスをを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回は運営推進会議を行い、入所者様の状況や課題にて話し合い参加者の意見を聞き、サービス改善を図っている。	コロナ禍にて書面での開催を継続してきたが、今年度は対面にて実施している。生活状況や活動、事故報告など丁寧に伝え、意見交換を行っている。新型コロナウイルス感染症情報に関して、地域情勢の情報共有や事業所の面会方針などを検討し相互にフィードバックを行っている。	運営推進会議の資料や議事録を家族に送付し、全家族が会議について、事業所の運営や活動、地域や周りの意見などを周知できる機会を作り、そこから家族の意見が出やすくなるような取り組みにて様々な意見が表出でき運営に反映されることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営上の留意点やサービス提供などについて、市の担当者に連絡を取り、指導を仰いでいる。運営推進会議にも参加を依頼している。	代表者が週に1回は市役所に訪問する機会を持っている。介護保険制度における解釈や活動における質問があれば連絡をすぐ取るなどして協力関係を構築している。地域包括支援センターも法人内同じ建物1階にあり適宜の情報共有や、主催する研修に参加するなど連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目(あじさい)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体にて身体拘束をしないケアを実践している。ユニット間の施錠は行わずに思いの傾聴や気分転換のケアを行っている。	法人全体で身体拘束廃止委員会を毎月実施している。年2回研修にて身体拘束について理解を深める他、事例検討をユニット会議で行い、ケースに沿って具体的に話し合い身体拘束をしないケアに繋げ実践している。スピーチロック（言葉による拘束）も管理者やフロアリーダー中心に意識し取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修にて、虐待について研修を行い、施設内での虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	管理者は権利擁護や成年後見人制度の研修へ参加したことがあり、他職員と学ぶ機会を持ち、活用の必要性があれば支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結時には、入所者様や家族に不安や疑問がないように丁寧に説明している。契約後でもわからないことがある場合には説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時やケアプラン作成の際には、家族の意見を聞く機会を作り、意見はケアプランに記載している。施設の要望に関しては、運営推進会議にて検討している。	家族の意見を面会や来所時、ケアプラン作成時などにて確認している。面会の希望や外出の希望などが上がる中、感染症に配慮し外出を可能にしたりと精力的に対応を行っている。利用者からは日々の生活から意向を確認し把握している。担当者が中心となり希望の実現に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(あじさい)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、ユニット会議を実施、職員からの意見、提案を聞く機会を設けている。必要時には個別に意見を聞く機会を作っている。	毎月ユニット会議を開催し意見を表出できる場を設けている。その他、業務の中や随時個別に話を聞く機会を持つこと、年1～2回個人面談を行い職員の思いや意見を聞き、利用者の状態変化により福祉用具購入を法人に申請し整備することや勤務の調整など適宜運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパスシートを使用し、個別の目標を設定し、個別評価を実施し、適切な評価を行いやりがいのある職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全体研修は年間計画に沿って実施している。全職員が参加することが出来ない為、閲覧できるようにファイルしている。外部研修にも参加可能な研修は参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部の研修等に参加し、ネットワーク作りを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時から安心して過ごすことが出来るように、本人からの話をしっかりと傾聴し、状態の把握を行うことで共同生活を安心して過ごすことが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目(あじさい)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の不安や要望等の思いを気兼ねなく語る機会を作り、良好な関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントを行い、入所判定会議にて様々な職種の職員と課題分析を行っている。適切な対応が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入所者様の出来ることに注目し、職員と一緒に洗濯たたみや食器片付けを毎日行い、入所者様と会話を楽しみながら良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会開始となり、対面面会を予約制にて行っている。家族が来られた時には、施設での生活状況についてお伝えしている。定期的にお便りや写真の送付を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの美容院に行かれたり、今まで行っていた関係が継続的な物となるよう支援させていただいている。	利用開始時に家族からこれまでの生活や習慣、背景、馴染みなどを確認し把握を行っている。馴染みの美容院へ通うことや園芸が楽しみであった方にはテラスで花や野菜を育てることを継続できるようにし、面会も近所の方が来られ繋がりが途切れないようにするなど、個別に支援している。	

自己評価	外部評価	項目(あじさい)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	リビングの椅子やテーブルの配置を考え、必要な場合は、座る位置を変更している。入所者様が孤立しないように支援し、不穏状態の場合にも一時的に席の変更をお願いしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他事業所に移られても、必要な状況は提供している。相談がある場合には、気軽に電話していただけるように話し、関係が切れないようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の会話の中から本人の思い意向を確認し、職員間で意識統一を行い、本人の思いに沿ったケアプランを作成している。	日々の生活の中で話を聞いたりして把握に努めている。確認した内容は申し送りノートにて職員間で共有しユニット会議で話し合い思いに沿った支援となるように取り組んでいる。自身で意思の表出が困難である場合は家族に確認し、職員も本人の立場に立って考え実現に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時の聞き取りや入所者様が以前利用されていたサービスの情報提供をもとに出来る限り今までの生活、暮らしを変えないように知り得た情報を職員全体が共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の暮らしの現状を観察し、記録に残した必要があれば申し送りノートを活用し、職員間で連絡出来るようにしている。現状の把握の為、定期的にあセスメントを行い、有する能力や課題や生活への思いについての現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(あじさい)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>計画作成担当者を中心にケアプラン作成している。毎月評価を行い、内容に変化があればその都度ケアプラン変更している。ケアプラン実施表も作成し、毎日実施できたかチェック行っている。</p>	<p>計画作成者と担当者、リーダーを中心に担当者会議を行い介護計画を作成している。本人の思いを大切にすることを念頭に家族にもしっかりと意見を聞き検討し、個々の役割も意識して取り入れたプラン作りを心掛けている。毎月担当者がモニタリングを行い必要に応じ見直しをしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子は介護記録に記入し、状態に変化がある場合は、バイタル表に記入している。ユニット会議にて情報共有を行い、ケアプランに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人や家族の意向をその都度確認し、その時々ニーズに応えることが出来るよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のボランティアの受け入れを開始しており、楽しみを持って頂けるように心がけている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関の医師から往診を受けておられる。入居前からのかかりつけの病院を希望される入所者様は、継続的に受診していただいている。</p>	<p>以前からのかかりつけ医の選択や協力医について説明している。協力医を選択する方が多く、2週間毎の訪問診療にて健康管理を行っている。以前のかかりつけ医や専門科へは家族協力を得ながら受診し、受診時には日々の様子を伝え連携を図っている。訪問歯科も必要に応じ行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(あじさい)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員は勤務していない為、併設特別養護老人ホームの看護師に訪問していただき、日常の関わりの中での気づきや情報を伝え、相談を行っている。緊急時には24時間連絡出来る体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医療連携室と連絡を密に行い、入院中の状態や退院後の対応について相談や情報交換等を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化対応と看取り介護に関する指針を入所時に説明している。事業所として対応できること出来ないことの説明を行っている。	利用開始時に重度化対応と看取り介護に関する指針を説明し、状態の低下や変化に随時思いや意向を確認し行っている。希望に応じ看取りを行う方針であるが、併設する特別養護老人ホームと連携が行えることで移る方が多くある。喀痰吸引の届出や緊急時対応研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の連絡体制を作成している。ユニット会議にて緊急時対応について学ぶ機会を作っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	隣接する消防署に依頼し、AED研修会を行っている。災害時の食料と水の備蓄を実施している。	年2回夜間想定を含めて定期的を実施し、訓練は法人合同での取り組みにて適宜消防署の指導を受け行っている。事業所は海すぐ傍に面しており、水害の被害を想定し対応がなされている。市の緊急避難所にも指定され体制を整備している。備蓄も3日分を常備し整えている。	

自己評価	外部評価	項目(あじさい)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	全体研修において、接遇について学ぶ機会を作っている。入浴や排泄の際には、職員の声掛けや態度においてプライバシーを損ねないように配慮し、丁寧に接しています。	法人研修にて接遇やプライバシーについて理解を深め、利用者の尊厳を大切にできるケアを取り組めるよう声掛けの仕方や対応など支援についてユニット会議で適宜話し合っている。基本的な声掛けも「どうでしょうか」と利用者を敬意意思決定が行えるように聞き方も大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定が出来るように声かけを行い、自己表現や意見の言いやすい環境や関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来るだけ入所者の意向に沿って、その人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に美容師さんに来ていただき、髪を切ってもらっている。起床時には本人に衣類を選択していただき、着替えてもらっている。整髪等も自己にて可能な入所者様は行い、介助を必要な方には支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	当施設では、栄養面や衛生面を考慮し、ユニットで調理せずに、厨房にて調理したものをタッパに入れてユニットに上げてもらっている。ユニットで盛り付けを行っている。食器の片づけは入所者様をお願いしている。	食事は法人事業所内厨房にて作られており、ユニットで盛り付けをして提供している。メニューの要望があれば給食委員会にて提案し反映できるよう努めている。コロナ禍で外食は行えていないが、毎月のおやつ作りや広々としたテラスにて海を眺めながらおやつを食べるなど行っている。	

自己評価	外部評価	項目(あじさい)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事チェック、排泄、水分チェック表を作成して排泄時間や水分摂取量のチェックを行い、一人ひとりの状態を把握し、1日の摂取量が確保できるように心掛けている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後の口腔ケアは、入居者様の自立度に合わせ、自分で出来る方には、促しを行い、口腔ケア介助は必要な方には職員が介助を行っている。食前には口腔体操を取り入れ飲み込みがスムーズに出来るように心掛けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表にて排泄パターンを知り、入所者様の定期的なトイレ誘導を行うことで失敗を少なくするように努めている。</p>	<p>排泄チェック表を活用し、個々のパターンや排泄時間にて検討をつけ適宜誘導や介助を行っている。一貫した支援にてトイレに行く習慣が付き、タイミングよく行けるようになった例もある。ズボンの上げ下ろしなどできることは自身で行い、難しい部分を介助することを徹底している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>適度な運動を1日の活動の中に取り入れ水分量の確認を行っている。排泄表を記入し、便秘気味の入所者様は排便カウントを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週2回の入浴を実施している。本人の体調や希望にて曜日や時間をずらすなどして柔軟に対応している。女性職員対応を希望される女性入所者様には調整して対応している。</p>	<p>週2回の入浴を基本とし、午前1名、午後2名と1日を通してゆったりと入れるよう行っている。浴槽は両側から入れるスライド式である。建物内1階にはグループホーム用に機械浴が設置しており、身体状態が低下し浴槽への移動が難しくなってもゆっくり湯船に浸かれることができる。</p>	

自己評価	外部評価	項目(あじさい)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は適度な運動や活動を取り入れ、メリハリのある生活を心がけている。また、一人ひとりの体調に合わせて身体に負担のないように、日中でも横になる時間を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報をファイルして、効果や副作用について確認出来るように努めている。薬の変更がある場合には、職員間で情報共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入所者の生活歴の情報収集を行い、やりがいや喜びを感じてもらえるような役割作りを実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日はベランダに出たりして日光浴をして楽しんでいる。秋には紅葉ドライブに出かけ、初詣もみなさんと近所の神社に参拝している。	感染症対策にて外出は自粛が続くが、敷地内の散歩や桜を見にドライブに行くなど利用者に行きたい場所を随時聞き、実現可能に向け検討している。家族が墓参りに連れて行きたいなど意向にも感染状況など時期をみて自粛を解除するなど対応を行っており、外泊や外食も可能としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭出納帳を作成し、施設にて管理を行っている。預かり金を使用する際は、家族に連絡し使用している。		

自己評価	外部評価	項目(あじさい)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>いつでも利用出来るように支援している。希望者は居室に携帯電話を置いてもらっている。手紙の投函等もお手伝いしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用の空間には、入居様がみんなで作成した作品や写真等を飾っており、入所者様が快適に過ごせるようにしている。職員が、温度・湿度管理を行い、居心地よく過ごせるようにしている。</p>	<p>リビングは広くゆったりした空間であり、窓から一面海が眺められる絶好のロケーションとなっている。広々としたテラスも設置され、プランターで家庭菜園や、おやつを外の空気を吸い、風を感じ海を眺めながら食べたりと有効に活用している。換気や加湿器にて感染症対策も行っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共用の空間にて一人で過ごせるように、椅子の配置やソファの設置をして気の合った利用者同士の空間を確保し、ゆっくりと過ごして頂いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人の使い慣れた者を持ち込んでいたり、安全に過ごせる様、家具の配置を考えたりしている。</p>	<p>テラスで栽培した花を居室に飾ることや自身の好きなものを持参でき、使い慣れた家具やテレビ、家族写真を飾るなど利用者の意向を踏まえそれぞれに居心地の良い居室を整備している。ベッドの向きなど動線も自宅での生活していた環境を確認し参考にして居室の配置を検討している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>洗濯物干し、タオルたたみや食事の準備等の家事は、出来る方に依頼している。トイレや居室には張り紙を行い場所が明確になるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目(あじさい) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲示し、管理者、職員等が理念共有し毎日の朝の申し送りの時に復唱し、理念の共有に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	ボランティアや職場体験などを受け入れ、運営推進会議等を開催し、地域の人と交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	市の委託事業のサロンにて、認知症への理解やケアについて研修やアドバイスをを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回は運営推進会議を行い、入所者様の状況や課題にて話し合い参加者の意見を聞き、サービス改善を図っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営上の留意点やサービス提供などについて、市の担当者に連絡を取り、指導を仰いでいる。運営推進会議にも参加を依頼している。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体にて身体拘束をしないケアを実践している。ユニット間の施設は行わずに思いの傾聴や気分転換のケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修にて、虐待について研修行い、施設内での虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者は権利擁護や成年後見人制度の研修へ参加したことがあり、他職員と学ぶ機会を持ち、活用の必要性があれば支援を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結時には、入所者様や家族に不安や疑問がないように丁寧に説明する。契約後でもわからないことがある場合には説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時やケアプラン作成の際には、家族の意見を聞く機会を作り、意見はケアプランに記載している。施設の要望に関しては、運営推進会議にて検討している。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、ユニット会議を実施、職員からの意見、提案を聞く機会を設けている。必要時には個別に意見を聞く機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパスシートを使用し、個別の目標を設定し、個別評価を実施し、適切な評価を行いやりがいのある職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全体研修は年間計画に沿って実施している。全職員が参加することが出来ない為、閲覧できるようにファイルしている。外部研修にも参加可能な研修は参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部の研修等に参加し、ネットワーク作りを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時から安心して過ごすことが出来るように、本人からの話をしっかりと傾聴し、状態の把握を行うことで共同生活が安心して過ごすことが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族の不安や要望等の思いを気兼ねなく語る機会を作り、良好な関係構築に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>アセスメントを行い、入所判定会議にて様々な職種の職員と課題分析を行っている。適切な対応が行えるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>入所者様の出来ることに注目し、職員と一緒に洗濯たたみや食器片付けを毎日行い、入所者様と会話を楽しみながら良好な関係を築いている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会開始となり、対面面会を予約制にて行っている。家族が来られた時には、施設での生活状況についてお伝えしている。定期的にお便りや写真の送付を行っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの美容院に行かれたり、今まで行っていた関係が継続的な物となるよう支援させていただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	リビングの椅子やテーブルの配置を考え、必要な場合は、座る位置を変更している。入所者様が孤立しないように支援し、不穏状態の場合にも一時的に席の変更をお願いしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他事業所に移られても、必要な状況は提供している。相談がある場合には、気軽に電話していただけるように話し、関係が切れないようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の会話の中から本人の思い意向を確認し、職員間で意識統一を行い、本人の思いに沿ったケアプランを作成している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時の聞き取りや入所者様が以前利用されていたサービスの情報提供をもとに出来る限り今までの生活、暮らしを変えないように知り得た情報を職員全体が共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の暮らしの現状を観察し、記録に残した必要があれば申し送りノートを活用し、職員間で連絡出来るようにしている。現状の把握の為、定期的なアセスメントを行い、有する能力や課題や生活への思いについての現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>計画作成担当者を中心にケアプラン作成している。毎月評価を行い、内容に変化があればその都度ケアプラン変更している。ケアプラン実施表も作成し、毎日実施できたかチェック行っている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子は介護記録に記入し、状態に変化がある場合は、バイタル表に記入している。ユニット会議にて情報共有を行い、ケアプランに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人や家族の意向をその都度確認し、その時々ニーズに応えることが出来るよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のボランティアの受け入れを開始しており、楽しみを持って頂けるように心がけている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関の医師から往診を受けておられる。入居前からのかかりつけの病院を希望される入所者様は、継続的に受診していただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員は勤務していない為、併設特養の看護師に訪問していただき、日常の関わりの中での気づきや情報を伝え、相談を行っている。緊急時には24時間連絡出来る体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医療連携室と連絡を密に行い、入院中の状態や退院後の対応について相談や情報交換等を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化対応と看取り介護に関する指針を入所時に説明している。事業所として対応できること出来ないことの説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の連絡体制を作成している。ユニット会議にて緊急時対応について学ぶ機会を作っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	隣接する消防署に依頼し、AED研修会を行っています。災害時の食料と水の備蓄を実施しています。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	全体研修において、接遇について学ぶ機会を作っている。入浴や排泄の際には、職員の声掛けや態度においてプライバシーを損ねないように配慮し、丁寧に接しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定が出来るように声かけを行い、自己表現や意見の言いやすい環境や関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来るだけ入所者の意向に沿って、その人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に美容師さんに来ていただき、髪を切ってもらっている。起床時には本人に衣類を選択していただき、着替えてもらっている。整髪等も自己にて可能な入所様は行い、介助が必要な方には支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	当施設では、栄養面や衛生面を考慮し、ユニットで調理せず、厨房にて調理したものをタッパーに入れてユニットに上げてもらっている。ユニットで盛り付けを行っている。食器の片づけは入所者様をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事チェック、排泄、水分チェック表を作成して排泄時間や水分摂取量のチェックを行い、一人ひとりの状態を把握し、1日の摂取量が確保できるように心掛けている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後の口腔ケアは、入居者様の自立度に合わせ、自分で出来る方には、促しを行い、口腔ケア介助は必要な方には職員が介助を行っている。食前には口腔体操を取り入れ飲み込みがスムーズに出来るように心掛けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表にて排泄パターン知り、入所者様の定期的なトイレ誘導を行うことで失敗を少なくするように努めている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>適度な運動を1日の活動の中に取り入れ水分量の確認を行っている。排泄表を記入し、便秘気味の入所者様は排便カウントを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週2回入浴実施。本人の体調や希望にて曜日や時間をずらすなどして柔軟に対応している。女性職員対応を希望される女性入所者様には調整して対応。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>日中は適度な運動や活動を取り入れ、メリハリのある生活を心がけている。また、一人ひとりの体調に合わせて身体に負担のないように、日中でも横になる時間を確保している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬剤情報をファイルして、効果や副作用について確認出来るように努めている。薬の変更がある場合には、職員間で情報共有できるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>入所者の生活歴の情報収集を行い、やりがいや喜びを感じてもらえるような役割作りを実施している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日はベランダに出たりして日光浴をして楽しまれている。秋には紅葉ドライブに出かけ、初詣にもみなさんと近所の神社に参拝しました。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>金銭出納帳を作成し、施設にて管理を行っている。預かり金を使用する際は、家族に連絡し使用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ひまわり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>いつでも利用出来るように支援している。希望者は居室に携帯電話を置いてもらっている。手紙の投函等もお手伝いしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用の空間には、入居者がみんなで作成した作品や写真等を飾っており、入所者が快適に過ごせるようにしている。職員が、温度・湿度管理を行い、居心地よく過ごせるようにしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共用の空間にて一人で過ごせるように、椅子の配置やソファの設置をして気の合った利用者同士の空間を確保し、ゆとりと過ごして頂いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人の使い慣れた者を持ち込んでいたり、安全に過ごせる様、家具の配置を考えたりしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>洗濯物干し、タオルたたみや食事の準備等の家事は、出来る方に依頼している。トイレや居室には張り紙を行い場所が明確になるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目(ひまわり) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームかるが

作成日 令和6年4月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	思いや意向の把握。	ケアプラン作成時に本人・家族に思いを伺うも生活の中に落とし込みが出来ておらず、反映出来ていない。	本人が興味あることやしたいことを生活の中にて行い、家族とも話をする機会を増やし、より具体的な計画書とする。	6か月
2	34	新型コロナウイルス感染症や感染症が広がる中、入所様に安全・安心な施設内の生活を送れるように感染防止に努めていきたい。	施設内で感染者を出さないことで安心した生活を提供できる。	感染対策6ヶ条を徹底する。手洗い・消毒・マスク・換気・更衣・うがい。感染時の対策について職員に周知する。	3か月
3	4	運営推進会議の内容が家族に伝わっていない。	運営推進会議の内容の掲示と、家族に運営内容が報告できる。	運営推進会議の内容を家族の面会時にお伝えし、内容を閲覧できるように掲示する。	3か月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。